

看護大から

宮崎県立看護大学 広報誌

MIYAZAKI PREFECTURAL NURSING UNIVERSITY PUBLIC MAGAZINE

# こんにちは

2015 Vol.18

## CONTENTS

- 2 学長からのメッセージ
- 3 地域推薦入試についてのご案内
- 4-5 【特集】本学の研究活動学食だより、図書館だより
- 6 学食だより、図書館だより
- 7 卒業生から在学生へのメッセージ
- 8 サークル紹介、大学祭のご案内





# 地域再生・活性化の核となる大学をめざして



学長  
瀬口チホ

## ●人材こそが最大の資源

少子超高齢化・人口減少など、社会の有り様が大きく変わりつつある現在、大学は、地域の特性に即した課題を解決するため「知の拠点」として大きな期待が寄せられ、転換期を迎えています。このことは本学にもあてはまり、本学の在り方も変革を求められています。

このような趨勢の中、国の教育再生実行会議第三次提言「これからの大学教育等の在り方について」（平成25年5月28日）では、平成29年度までを「大学改革実行集中期間」と位置付け、「大学におけるガバナンス機能の強化」の項目が設けられました。まさに大学ガバナンス改革は不可避となっています。その一つ的手段としては「大学の法人化」があります。昨年、「県立看護大学あり方検討委員会」（宮崎県）での検討の結果、県立看護大学は、「地域社会と連携し、本県の保健・医療・福祉の充実に貢献する大学」をめざしていくべきであり、また、それを実現していくために、設置者である県と大学が方向性を共有しながら、理事長・学長のリーダーシップの下、自立性、自主性をもって機動的に大学運営を行っていくことが必要と確認されました。そして、その実現のためには、公立大学法人に移行すべきであるとの結論に至りました。今後は平成29年度を目途に法人化をすすめることとなっています。

そこで、社会の有り様と共に大学内の全組織が有機的に連携し、「知の拠点」として地域を指向した看護教育・研究・地域貢献の3本柱を融合させた大学の活性化への取り組みが重要であります。

中でも、教育の充実とは、一人一人の豊かな人生の実現のために必要不可欠なものです。教育の質の向上は、一人一人が持つ能力・可能性を最大限、伸長させ、個々の人生を豊かにし、社会全体を一層発展させていくことにつながります。すなわち、人材こそが最大の資源であり、教育の充実こそが最も重要だと考えます。

## ●地域再生の核となる大学へ

本学の教育目標の一つに「人間に対する深い理解と倫理観を培い、人々の喜びや悲しみ、痛みや苦しさを分かち合える豊かな感性と自己のもてる力を差し出せる温かい心を伸ばします」を掲げています。この理念の下、県民のニーズに則した教育の質的改革により、自立・協働・創造に向けた力の修得、課題探究のための能力の修得、さらにチームワークやリーダーシップを発揮し、社会的責任を担いうる倫理的・社会的能力を育成するなど、学生の主体的な学びを重視した教育の充実に力を注ぎたいと考えています。

本学は、県立の公立大学として、地方創生等の政策動向をも踏まえ、地域や大学進学希望者から選ばれる魅力ある大学をめざしていきたいと考えています。そして、対策や変革にも自主的・機動的に対応できる体制を構築し、学部教育・大学院教育・研究並びに地域貢献に反映させていきたいと考えています。そして、このことが生涯学び続け、主体的に考え、行動できる人材を育成し、県民の健康的な生活づくりへの支援につながっていくと考えています。本年度を本学の新たなスタートの年と考え、全教職員が一丸となって取り組み、地域再生・活性化の核となる大学を指向したいと考えています。

# 地域で活躍する看護職者育成を目指して 「地域推薦入学制度」を始めます

入試委員長・就職対策委員長 串間敦郎

近年、少子高齢化が急速に進展したことにより超高齢化社会が到来し、その対策のための医療・介護制度改革が急ピッチで進むことで、保健、医療、福祉を取り巻く環境にも大きな変化が起きています。今年開学19年目を迎えた本学は、これまで約千五百名の卒業生を社会に輩出してきました。現在卒業生達は、このような社会情勢の中で、宮崎県内外の様々な医療機関において看護職者として活躍しています。

本学建学の目的の1つは、県内の看護職者の育成と確保です。卒業生達は毎年宮崎県内に就職し、県内看護職者の中での本学卒業生の占める割合は年々増加しています。しかし県内の各地域において、地域医療に従事する卒業生が必ずしも多くない事が、これまで課題として挙げられていました。そこで、「地域住民の健康を担い、将来リーダー的役割を果たすことのできる優れた看護職者の育成と確保」をねらいとした、「地域推薦入学制度」を今年度より実施します。この制度は、県内の市町村長及び高等学校(中等教育学校を含む)長により推薦され、卒業後は推薦市町村の医療機関に看護職者として就業して頂くというものです。入学した学生は、推薦した市町村から奨学金制度を利用した経済的支援や地域での病院研修等により学生を支援して頂き、卒業まで本学と共同で育成していきます。

入学試験は、これまで推薦入学者や社会人入学者を選抜している特別選抜試験において実施しますので、今年度は11月下旬に行います。この制度を利用し、今年度推薦するかどうかは各市町村が決定します。出願は、在校する高校の所在地の市町村か出身の市町村どちらからでも可能ですので、希望する市町村に問合せをしてください。入学定員は5名で、出願資格は、現役生だけではなく卒業後1年以内の方も対象とします。この制度に関する詳細は、5月に公表予定の「平成28年度入学者選抜要項」に記載しますので、そちらで確認してください。

本学の素晴らしい教育環境のもとで学び、将来地域の医療を担う看護職者として活躍したいと願う多くの方々の受験をお待ちしております。





## 本学の研究活動(教員)

### 宮崎県内の急性期医療に携わる看護職者の看護実践力向上のための支援事業 ～全人的視点に立った質の高い実践をめざした事例検討・学習会～

事業代表 寺島久美(本学教授)

#### はじめに

急性期医療の場では、身体侵襲が大きく変化が激しい状況にある人々に対して、生命を守ることを最優先として医療が行われることが多いといえます。そのような状況下にあって看護では、常に目の前の看護の受け手を“身体と心と社会関係及び生活過程の統一体”として捉えて全人的な視点をもってケアしていくことが求められます。

そこで、平成24年度より、急性期医療に携わる看護者を対象にした実践力向上のための支援事業の1つとして、急性期領域での身近な看護実践を持ち寄ってナイチンゲール看護論を基盤とした科学的看護論を適用しつつ提出者の問題意識に沿って事例検討を行い看護の意味や方向性を明確にしていく事例検討・学習会を実施しています。

全人的視点に立った質の高い急性期看護実践をめざして、参加者全員で具体的な実践事例を元に検討し、学習会が終わる頃には見えていなかった事実の意味が見えてきて、参加者全員の中で日頃の実践体験と重なって意義深い気づきが生まれ、看護の価値の再確認や看護の視点強化に繋がっています。事例検討・学習会での学びや気づきの一部を紹介します。

#### 患者の回復力に着目してその力を促進できる看護を！

手術後、集中ケアで治療・看護を受ける患者に対して、合併症予防を重視するあまり不安を抱かせる関わりになりがちであったことに気づき、患者の回復力に着目して、その力を促進させていく看護の必要性を認識したり、患者の生きてきた時代背景と患者情報を重ねることで患者の立場に立ちやすくなると気づくことができました。

#### 救急外来のわずかな関わりから患者に潜む健康問題に気づき全人的ケアに繋げる！

複数の病院で対症療法を受けつつも根本的な解決に至らず夜間救急外来を受診した患者に対して、全人的視点から患者に潜む根本的な健康問題に着目して、医師との協働で症状を緩和すると共にセルフケア力を高める生活支援につなげていくことができた実践を共有し、全人的な視点の強化と、今後の看護実践への方向性につながりました。

#### 自殺予防として急性期看護師の果たすべき役割を確認！

積み重なる困難な状況の中で、多くの喪失体験をし、生活基盤と自己存在がゆらぎ、十分な回復過程をたどれずに自殺企図に至ったケースへの実践の検討を通して、患者や家族が辿ってきた過程に着目して、患者・家族の位置に立って発生している対立を見だし、対立の緩和に向けて働きかけることで患者・家族の持てる力が発揮されていくよう支援することの重要性を確認することができました。





## 本学の研究活動(学生)

看護研究・研修センター運営委員会 コンソーシアム専門部会 橋口奈穂美(家族看護学Ⅰ 講師)

本学ではほぼ毎年、宮崎学生インターゼミナールで学生が研究報告をしています。宮崎学生インターゼミナールとは、宮崎県内の大学・高等専門学校の学生が日頃行っている研究・活動を、他大学・高等専門学校の学生や地域住民の方々を対象に発表し、研究についての意見交換を行なう場です。

平成26年度は、12月6日(土)に宮崎産業経営大学で開催され、3年生グループの甲斐有希菜さん・江口佳子さん・榎園優子さん・佐伯裕美子さん・増田莉奈さんの5名1組、4年生グループの古川真帆さん、サポーター森戸愛子さんの2名1組の計7名が参加しました。

- 3年生グループの研究テーマは、「身体にやさしい生理用品“布ナプキン”使用による月経と身体の変化」でした。ケミカルナプキンと布ナプキンの両方を研究協力者に使用してもらうことで、経血量や月経随伴症状などに変化があるかを調査し発表しました。



発表の中では、月経痛はケミカルナプキン・布ナプキンと差がなく、ナプキンによる肌のかぶれはケミカルナプキンに多く見られると結果をみちびきだしていました。布ナプキンについては、他大学からも発表があり、学部をこえて関心を持たれていることがうかがえました。

また、3年生の発表は、優秀賞に選ばれました。

### 発表を終えた学生の声

研究に取り組むことで、自らの身体の変化を感じ取れ、自分と向き合う機会になりました。今回、布ナプキンのよさを伝え広められる機会になり、「月経ケアの大切さ」について発信できたのではないかと思います。私たちは、看護以外の専門を学ぶ機会が少なく、他大学の研究が新鮮で興味深く、地域社会の課題を知ることにも繋がり、とても良い機会となりました。

- 4年生の古川さんのテーマは、「災害時の保健師活動について」でした。地域看護学実習中に、その実習先で大雨による床上床下浸水などの被害が発生し、その時保健師がどのような判断をして対応したかと、その意味を考えて保健師活動のポイントを明らかにし発表しました。

会場からは、「住民としてどう行動したらいいか、住民としてできることは何ですか？」や「保健師のできる事、できない事の切り分けはなんですか？」など質問がありました。古川さんは、「地域住民は赤ちゃんから高齢者までさまざま。避難生活をする上で必要な物の準備や日頃から防災意識を高めてほしい事」や「保健師は住民の健康を守るのが基本。保健師の力だけでできない事もあり、行政等と連携することができるようにも保健師の力。切り分けるといふより、判断して頼る・連携することが大切」などと答え、活発な意見交換が行われました。

### 発表を終えた学生の声

住民に身近な保健活動を行う保健師という専門職が、災害時に果たす役割や活動等をみなさんに知っていただく良い機会となりました。また、普段はなかなか聞くことのできない、他大学の様々な分野の研究発表を聞ける大変貴重な時間でもありました。今回の発表や意見交換を、今後に活かしていきたいです。





## 学食だより

### 笑顔と真心でお待ちしています!

コンパス九州 調理師 荒武 智子

爽やかな春の訪れと共に、明るくフレッシュな新入生の元気な声と笑顔が、学生会館に飛び込んでくるようになりました。

学生会館にある食堂は吹き抜けになっており、木の温もりを感じる事の出来る明るい空間となっています。新入生の皆さんは、このような暖かで明るい空間でお食事を楽しむことができます。

また、当食堂の定食は、サイドメニュー(3~4品)メイン(魚・肉)から、好きな物をお選び頂くシステムになっています。ごはんを受け取る際に申し出て下されば、ごはんの量も調整できますので、お気軽にお申し付け下さい。メニューによりましては、いち早く完売となる事もございますので予めご了承ください。

「食」は人々の生命を維持し健康を育む人間にとって欠かせない存在です。一食一食を大事にする事が大切です。今一度自分自身の1日の食事摂取量を知り自分の活動に見合った食事を摂り心と身体に美しい食事を食べましょう。

1日の必要とするエネルギーを求めるには、以下のような計算式が知られています。身長(m)×身長(m)×22(体格指数)×30これはあくまでも目安であり、運動量・年齢・性別・体格によって異なりますので自分に見合った食事を心がけましょう。

本日もまた「笑顔と真心」をモットーに皆様のご来店を心よりお待ち申し上げております。



## 図書館だより

附属図書館職員 金丸 真由美



本学の附属図書館では、現在、約7万2千冊の書籍のほか、雑誌や視聴覚資料を所蔵しています。これらの所蔵資料は『図書館OPAC』(<http://opac.mpu.ac.jp/opc/>)で自宅のパソコンでも検索が可能です。また、館内備え付けのパソコンで『医中誌Web』『最新看護索引Web』や『CHINAHL / MEDLINE』などの情報データベースを使い、国内・海外の看護・医療系などの論文情報を得ることが可能です。

図書館の開館時間は平日9時から19時。土曜日11時から17時。日曜・祝日は休館です。春休みなど長期休業期間中は平日の開館時間が9時から17時となります(9月を除く)。



貸出の際には利用者カードが必要です。本学の学生は学生証、学外の方は利用者カードを提示して下さい(県内在住・在勤の方はカードを作成できます。カード作成には現住所の確認出来る身分証明書が必要です)。

貸出冊数は一人5冊まで貸出期間は2週間です。休館日、新着図書情報は附属図書館のホームページから確認できます。ぜひご利用下さい。

附属図書館(<http://www.mpu.ac.jp/mpnu/library/>)



# 卒業生から在学生へのメッセージ

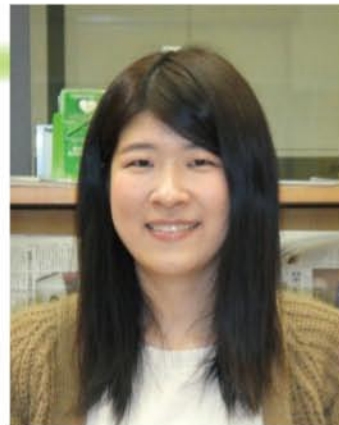
## 仲間の素晴らしさ

山本 愛莉 (宮崎県立日向高等学校卒)

宮崎県立病院へ就職予定(助産師)

幼いころからの夢であった看護を学ぼうと、看護大を目指していたときに助産師という職業を知りました。1年次からの講義や実習で、相手の立場に立つことの大切さや、患者さん自身のセルフケア能力の向上につながるような支援の必要性などを学んでいくにつれ、看護のおもしろさを知りました。そして助産師として専門性を深め力を発揮したいと考えようなり、進路を決めました。これから助産師として働くことになりますが、母子に限らず女性の一生を支えられるように日々成長していきたいと思います。

在学生のみなさん、看護大には、励まし合い目標を共有できる仲間や、親身になって応援してくださる先生方がいます。4年間とても充実した時間を過ごすことができました。みなさんも看護大でたくさんの仲間たちと、楽しみながら学んでいってください。



## 大学生活からの学び

足立 明日美 (宮崎学園高等学校卒)

宮崎県内の高宮病院へ就職予定(看護師)

看護大で過ごした4年間は振り返るとあっという間でした。学生生活は友達と過ごす楽しい時間も多のですが、課題や試験、実習など大変だと感じることもたくさんありました。しかし、楽しいことだけでなく大変と感じたことも共有できる友人や、支えになってくださる先生方や先輩方が身近にいる看護大だったからこそ、乗り越えることができ、貴重な経験として大切な思い出にすることができたのだと思います。実習では、実際に患者さんと関わらせていただき、患者さんや指導者の方々から多くのことを学ぶこともできました。これからは4年間で学んだことを全てを活かして看護師として頑張っていきたいと思います。

看護大は看護師としてだけでなく、1人の人間としても成長できる大学だと思います。在校生の皆さんも学生生活の中で多くの学びを得て日々成長しながら、頑張ってください。





## みんなで作る楽しさ

3年次生 坂上 茉優

こんにちは、食研究サークルです。私たちは、毎月、看護学生らしく栄養バランスがよく宮崎県産の旬の野菜たっぷりのメニューを考え、みんなで料理を作って食べるという活動をしています。部員たちで作りたいものや、一人では作れないような難易度の高い料理にも挑戦しています。11月は鮭の南蛮漬け、茶碗蒸し、里芋のグラタン、パンプキンパイを作りました。

毎年5月の大学祭では、サークル伝統のニンジンのポタージュスープやゴーヤの佃煮などを振る舞い、地元住民の皆様にも好評をいただいています。野菜に含まれた栄養価や、さまざまな調理法を知ってもらうために、ポスターや料理のレシピを置く工夫もしています。

なかなか家で料理が出来ない人でも、このサークルではみんなで作るから、料理の楽しさも感じられます。そして、自分たちで作った料理を食べる時が何よりも幸せを感じられます。これからも、健康的でおいしい料理をたくさん作っていききたいと思います。



## 大学祭(公孫樹祭)のご案内 結～むすぶ～

### 看護大をひとつに 地域をひとつに

大学祭実行委員長 小野 悠 (3年次生)

本学の大学祭は公孫樹祭と呼ばれ、教職員や地域の方々に支えられながら学生の手で創り上げてきました。これまでの先輩方が創ってきた公孫樹祭は、地域の方々と学生が交流し、繋がりを持てる素晴らしい機会となっていました。そこで、私達も、この良き伝統を引継ぎ、地域の皆さんと一緒に楽しく大学祭にしたいと考えています！！

また、私達は《幅広い年代を対象に、学生、地域などのすべての人々が楽しめる》公孫樹祭を目標にしています。その思いを込めたのが『結～むすぶ～ 看護大をひとつに。地域をひとつに。』というテーマです。そして、今年度の公孫樹祭のメインは看護大らしさをアピールしたナース喫茶です！！ナース喫茶をパワーアップして、ご来場していただいた方が「楽しかった」と思えるものにしています！！ナース喫茶以外にも小さなお子様も遊べるような乳幼児向けの「キッズコーナー」・小学生向けの「遊ぶっちゃん」・健康測定など看護大学ならではの企画をしています！公孫樹祭は5月16・17日です！！ぜひお越しください！！一緒に公孫樹祭を楽しみましょう！！

